

## 曾我ひとみさんの家族との再会について

昨日開催された日朝外相会談で曾我ひとみさんと家族との再会が今月 23 日までにインドネシアで行なわれることになった。

この問題について、誤解を恐れずに見解を述べておきたい。曾我さんの拉致事件で、現在の最重要事項はまったく明らかになっていない母ミヨシさんの安否である。家族との再会が一番近いところにあるのは事実だがジェンキンス氏と二人のお嬢さんの周辺に危険が迫っているわけではない。もちろん、曾我さんは一刻も早く会いたいと思っているに違いないし、私たちも再会が実現することを期待しているが、それによって拉致問題の本質から目を逸らさせようとしている北朝鮮の手口にはまってはならない。

拉致問題の本質というのは、北朝鮮が半世紀にわたり、その国家目的にしたがって拉致を続けてきたということにある。政府認定者をふくめ少なくとも 100 人以上、おそらくはそれよりはるかに多数の日本人が拉致されているのは明らかである。しかしそのうちで北朝鮮が認めたのはわずか 13 人にしか過ぎず、北朝鮮当局は帰国した 5 人以外は死亡したと今でも強弁しているのである。このような相手の言う「再調査」がいかにか欺瞞に満ちたものかはあらためて説明する必要もないだろう。

政府は最近認定者 10 人についての死亡情報をリークしているといわれる。これが拉致事件の幕引きを狙ったものであることは明らかである。またいわゆる「10 件 15 人」という政府認定自体が、この 15 人を救おうとするものではなく、それ以上の拉致事件を認めたくないという日本政府の姿勢の表れである。私たちはこれを絶対に許すことはできない。

拉致は北朝鮮が休戦以降も続けている朝鮮戦争の一環、重大な主権侵害行為である。一部の人間が行なった個別的犯罪ではない。被害者の救出は正攻法をもって北朝鮮に圧力をかけ、拉致被害者を解放せざるを得ないようにするしか方法はないのである。幸い、5.22 小泉訪朝でも制裁については「平常宣言を遵守する限り」という留保条件がついている。北朝鮮は核開発をやめておらず、またこれまで認めていない拉致被害者が多数いるのだからこの宣言自体事実上意味のないものだ。したがっていつでも制裁はできるのである。

独裁政権を延命させることは拉致被害者救出を遅らせるのみならず、北朝鮮の一般国民の苦しみをさらに長引かせることになる。悪とは強い姿勢で向き合う勇気が政府に、それ以上に私たち国民自身に求められている。

北朝鮮と、日本政府の談合を押し留め、正攻法から拉致の完全解決を実現するのは国民の力をもってするしかない。今のままでは拉致被害者は大部分が北朝鮮でその生を終えざる

04年07月02日■曾我ひとみさん家族再開についての談話

るをえず、今後も拉致は行なわれるだろう。そのようなことは絶対に許してはならない。  
各位のご協力を切にお願いする次第である。

平成16年7月2日

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博